



技術士受験の薦めと平成25年試験制度改革のポイント

理事 清水 正明（総監、建設・上下水道）

1. はじめに

まずは、本年5月に理事に就任させていただき会員の皆様にお礼を申しあげたい。ほぼ半年が経過したが、会長以下、役員の方々の苦勞が身にしみて分かった。私自身、ほとんど何も貢献できてないが、残された任期まで少しでも県技術士会発展のため、頑張っていきたいと考えている。本稿では、技術士を1人でも多く誕生させるため「受験の薦め」と来年度の「試験制度改革」について触れてみたい。

2. 技術士受験の薦め

県技術士会の役目の一つに、「技術士受験のお手伝い」がある。それは、試験案内のポスターの掲示依頼や受験申請書の配布、受験説明会の開催などである。読者の方はほとんどが既技術士と思われが、以下は、「これから挑戦しよう」「複数科目を取得しよう」考えている方の一助になればと思う。私自身、官庁に勤め技術士の資格は特段必要でもないし、とても自分が取得できるような資格とも考えていなかった。しかし、40歳代の前半の頃、30代の後輩が一発で受かり「清水さんもやってみんねえー」となってしまった。そして、4回目の受験で2次試験の筆記を受かったが、自分の受験番号を見つけた時は涙が出てきた。後輩に論文の添削を頼むたびに論文は「真っ赤」で原文がなく、くやしい思いをしたが、今「試験の何か」を掴めているのは、その後輩のおかげである。まず受験に当たっては、その「何か」を掴んで既技術士に相談してもらいたい。

まずは、受験申請書の「業務経歴」からである。論文がいくら上手でも、口頭試験の経歴説明でつまずくと元も子もない。1次試験を受かっている人に2次試験の受験を薦めると「大した経歴を積んでない」と言われる人がいるが、7年以上の業務をしているとすれば、絶対に何かあるはずである。大きい事とか難しい事の必要はない。特に、来年から「体験論文」が廃止となることから、経験が少ない若年技術者にもかなり有利に働くものと思われる。産学官の有志が集まって「技術士勉強会」なるものを開催している。2ヶ月に1回であるが、受験勉強もさることながら、自身の資質向上に役立っている。2次試験の受験を考えている人は、是非、一度覗いていただきたい。

3. 平成25年度試験制度改革のポイント〔技術部門の2次試験〕

これまで、私が知っている限りでは、平成15年度に制度改革があり、2次試験を受けるには1次試験合格が義務づけられた。また、2次試験の必須一般に択一試験が

導入され、経験、一般、専門論文の文字数が軽減された。次に、平成19年度に制度改革がなされ、必須の経験論文が廃止され、口頭試験時に技術体験論文の提出に変わった。それと、必須の一般の択一試験が廃止され、一般、専門と文字数が大幅に軽減された。

平成25年度からの制度改革については、まだ案の段階だが、現在分かっている事を報告する。まず、必須に択一試験〔平成18年度までと同じく20問より15問を選択〕が復活し、必須一般論文がなくなることから、勉強法が大きく変わることになる。時間的に言うと平成18年度までの択一試験は、私の場合、45分から1時間程度かかっていたから、1時間30分あれば、問題ないと考えられる。〔平成27年度から「足切り」が実施される。点数は未定〕建設部門や環境部門では、白書の読み込みが重要な要素となりそうである。

次に、選択科目だが、「専門知識と応用能力」が600字の4枚で、2時間。「課題解決能力」が600字の3枚で2時間。「専門知識と応用能力」は、従前の専門試験と同じ要領で、枚数が6枚から4枚に減ったと考えればいいのではないだろうか。建設部門だったら、2枚ずつの2問。上下水道部門だったら、2枚で1問と1枚1問、1枚1問となるのではないだろうか。あくまで、これは推測であるが、これまでの試験の推移を考えると4枚1問はないと考えている。どんな問題が出て指定枚数でキチンとまとめる能力の養成が必要であろう。「課題解決能力」については、総合技術監理部門の必須の論文問題みたいに、自分の経験業務〔経験が少ない人は、想定可〕の課題解決を書かせ評価するのではないだろうか。

また、前項の「業務経歴」の文字数を増やし詳細に書かせるとのことである。経験〔体験〕論文がなくなった分、これまでの「技術士としてふさわしい業務を既述せよ」が、少なくとも2題の業務内容を書くことになるのではないだろうか。そして、それを口頭試験の質問のネタとするのだろう。その口頭試験だが、現在の45分から20分〔必要があれば、30分まで可〕に短縮される。

4. おわりに

制度改革のポイントと言いながら、「推測」が多いことは、現時点では勘弁願いたい。私自身、これまで2回の制度改革を経験し、「3種類」受験してきた。

是非、皆さんと新制度の試験を経験したいと考えている。最後に、「制度改革の年は合格率が高い」です。

技術士試験を振り返って

松尾大介（上下水道部門）

私は、企業内技術士です。長崎県技術士会から原稿依頼をされましたが、原稿内容については、特に問わないと言うことでしたので、技術士試験を振り返ってお話したいと思います。

私が、技術士第一次試験に望んだのは、30歳の時でした。それまで、名刺交換をする際、相手が技術士であると、『この人は雲の上の人だ。次元が違う人種だ。』とっていました。しかし、今後土木業界に従事していくならばいつか取得しなければならない資格であるとの認識はしていました。年々業種に問わず資格取得の重要性が高まり、その中でも業界最難関資格の技術士試験取得が最重要課題であると位置付け、技術士試験に挑戦することにしました。

技術士第一次試験合格後、第二次試験に望みました。第二次試験の問題を見た瞬間、『んっ・・・』頭が真っ白になり何も書けないまま終了しました。試験終了後、指導を受けた上司に試験解答の復元を行いなさいと指示されたものの試験で何も書けなかった私が、復元を出来るわけもなく、そのことを上司に話すと、『君は、諦めたのか？最初から諦める程度なら受けない方が良い。受かりたい気持ちや諦めない気持ちがないとこの試験は受からない。』と。私は、試験問題を見たとき『やはり無理だ。何も書けない。来年頑張ろう。』と最初から諦めていました。

それまでの勉強方法とは異なり、第二次試験の論文作成に合格するための勉強方法に切替え、会社の上司（技術士）に指導を受けながら、勤務終了後、手が震えて鉛筆が持てなくなるまでひたすら書くというスパルタ勉強法を行いました。結果翌年の筆記試験に合格することが出来ましたが、東京面接でまさかの不合格となりました。面接でまさか落ちるとは考えておらず、落ちたショックからモチベーションが上がらず、翌年は筆記試験で落ちました。こうするとなかなか負のスパイラルから脱出することが困難で技術士試験の難易度の高さを痛感しました。

しかし、モチベーションの回復にさほど時間がかからなかった出来事がありました。それは、学生時代の同級生が技術士試験に合格したのです。それは、喜びと悔しさが入り混じり、資格取得意思の再確認を行える出来事でした。頭の中に映画ロッキーの主題歌が流れ、手が震えて鉛筆が持てなくなるまでひたすら書くというスパルタ勉強法バージョン2にレベルアップを行い翌年の筆記試験、東京面接を経て無事合格することができました。合格して喜びは感じたものの、また違う感情が湧いてきました。それは試験合格がゴールでなく、技術士のスタートであることです。技術士試験に望んだ初心の気持ちである諦めない精神で今後も自己研鑽に励む次第です。どうぞ皆様よろしくお願ひします。

前長崎県技術士会会長犬束洋志様の叙勲のお祝い

理事 大橋 義美（総監、建設）

前会長犬束洋志様の平成24年度叙勲（瑞宝小受章）を祝う会が9月26日に長崎市で開催されました。

祝う会の発起人代表は、長崎大学名誉教授岡林隆敏様、(株)大島造船所顧問城下伸生様、長崎県技術士会山口和登様で、長崎県、長崎市、長崎大学、建設業界、長崎県技術士会（17名）等の関係者など70名の参加で盛大に開催されました。

式では、発起人代表の岡林長崎大学名誉教授のご挨拶、犬束様の経歴紹介、県・市の関係者の祝辞、記念品の贈呈、犬束様から出席者に対する謝辞があり、県庁勤務中先輩より「人の真似はするな」、「自分の立場に与えられた職責を全うすること」と教えられ、これを心に誓い業務を遂行した等のお話がありました。その後山口会長の音頭で乾杯をして祝宴に入りました。祝宴は、和やかに執り行われ、最後に城下様の万歳三唱で祝賀会の幕が降ろされました。



犬束様のご功績の一端を紹介しますと、昭和33年に長崎県へ奉職された後、香川県・静岡県の道路課長も歴任され、その後長崎県の道路建設課長や土木部長等を歴任後、長崎市技術助役に就任され、長崎県内の活性化と繁栄に大きく貢献されました。

特に、昭和63年からは長崎県の大きな課題であった、九州横断自動車道の長崎多良見ICから長崎IC間の実現に、また、県北地域に大きな影響がある福岡～武雄間の西九州自動車道を、佐々・江迎・松浦を經由する外回りルート確定に尽力されました。地域高規格道路網計画と長崎県内2時間（主要都市間）交通圏計画の策定をされ、県内の各地域が交通インフラの恩恵を受けて交流の活性化を図ることが出来る道筋を作られました。また、昭和57年の長崎大水害後の中島川・浦上川の復旧や緊急治水ダム事業を進められ、市民の安全・安心のため、また、平成2年の雲仙普賢岳の噴火災害の際には土木部長として早期の復興に尽力されました。都市計画関連では、浦上川線や小ヶ倉釜茶屋線の都市内街路の整備や区画整理事業等のも尽力されました。

特に、離島架橋については、平戸大橋や生月大橋・大島大橋・女神大橋・新西海橋等数多くの橋梁の計画・調査・設計・事業化に関わっておられます。平戸

大橋は当時吊橋として国内最大級で、この吊橋の完成により国内の吊橋技術が大きく進歩しました。

その他、数多くの事業に関わり貢献されています。そして、71歳の時に工学博士を取得されました。博士論文は、「長崎県の離島架設の整備における技術的対応と投資効果に関する研究」で県内の離島架橋の建設経緯を詳しく調査すると共に、代表的な架橋である平戸大橋（吊橋）と生月大橋（連続トラス橋）について技術的検討を行い、更に、架設の事前評価、事後の実績及び平戸大橋を対象として橋梁利用者の評価についてアンケート、ヒヤリング調査を実施し投資効果について新しい提言をし、長崎県の長大橋の建設技術の進展と離島と半島への経済効果を総括した論文です。

このように多忙な中、永年に亘り長崎県技術士会の会長として、会員の増大、会の活性化のため研修会の充実、そして機関紙（APREN）の創刊等、積極的に取組んでもらい現在の技術士会を育てて頂きました。

今回の受章は、私達長崎県技術士会にとっても非常に誇りとするところです。

これからは、ご健康に留意され益々のご活躍をご祈念申し上げます。



—行事の御案内—

① 「観光丸クルージングと神ノ島」

長崎港で観光丸クルージングと神ノ島（お台場跡）巡りで、幕末にタイムスリップし当時の技術に思いを馳せませんか。

佐賀の「佐賀城下まちづくり実行委員会」主催で、「観光丸クルージングと神ノ島」の催しがあります。長崎県技術士会へも参加の呼びかけが参っております。多くの皆様の参加をお待ちしております。

日時は、平成24年10月28日(日)の11時40分に長崎港ターミナル集合です。

乗船費用は、2,000円（大人1名）です。詳細は添付の案内パンフレットを参照下さい。

参加ご希望の方は、技術士会事務局までご連絡下さい（10月24日締切り）。

② 第91回勉強会「ジオラボ」

主催：(社)地盤工学会九州支部／長崎地盤研究会

後援：長崎県技術士会

日時：平成24年10月12日(金) 13:30～17:00

会場：長崎大学文教キャンパス 総合教育研究棟
2F 多目的ホール

③ ながさき建設フェア

主催：(財)長崎県建設技術研究センター

共催：長崎県

後援：長崎県技術士会他

日時：平成24年10月11日(木)～12日(金)

会場：長崎県立総合体育館メインアリーナ

詳細は(財)長崎県建設技術研究センターのホームページをご覧ください。

④ 地域産学官と技術士との合同セミナー

主催：日本技術士会（九州本部担当）

日時：平成24年10月20日(土) 9:00～17:00

会場：大分県労働福祉会館ソレイユ

本講習会に参加される長崎県技術士会会員は1万円の交通費の補助を予定していますので、申し込まれた方は事務局または広報担当（桐原）までご一報いただきますよう、宜しくお願いします。

機関誌発行担当者より

日本技術士会九州本部の「技術士だより・九州」の次回発行は平成25年1月で、長崎地区は「私の提言」と「私のチャレンジ」の原稿依頼が予定されています。締切りは11月末の予定です。また、平成25年1月には新年号として長崎県技術士会機関誌も発行します。併せて会員の皆様のご協力宜しくお願い致します。

大栄開発㈱ 桐原 敏

〒857-1151 佐世保市日宇町2690番地

TEL：0956-31-9358、FAX:0956-32-2711

E-mail：s.kirihara@daieikaihatsu.co.jp